校異
首書

古佐日記

全

校異 肯書 土佐日記

東野文庫

土佐日記奏序

校註土佐日記序

世學者讀土佐日記者或以紀大夫劫於海賊論封建制者有之或併古今集大井川二序論文章之法定於大夫者有之或謂是紀行也非日記也且以此書為日記始者非矣法蓍立論其言人人而殊余則獨嘆晁卿掞天之章在我東方實為千古佳話然微此記誰聞其詳卿亦得大夫渺茫望海之恨或不多

文化八年

齎是卿雖不得歸猶歸也藤翁在時每過余而飲必及此事矣初翁校注之也余聞之其家人翁起亦必曰日記坐亦必曰日記出入飲食無不言日記日記者乃知翁畢生之志在茲雖有志非得其助不易於潰成也翁則前有本居老人挽之後有大平有信猛彦諸子推之今又其門人為先師竭力校梓遺書使翁之為大夫盡心者傳千歲而不亡是翁雖歿猶不歿也余老儒也常訓人以忠孝之道故嘉其事序而道之翁名磯吳尾張國中島郡起驛人文政紀元戊寅冬十月

尾張　秦　鼎撰

尾頭備書

キ　キノエ。キノト
ヒ　ヒノエ。ヒノト
ツ　ツチノエ。ツチノト
カ　カノエ。カノト
ヒ　ヒノエ。ヒノト

和加夫世学びのたゝうの品あるしかゝる俄見ハ
ほくとけうてふらむこゝも
ゆかしくつゝもゝふらくめるはをさんと
をこゝ見るこゝハいとこのゝらゝかゝなくく
大ふもゝ地たそれがからみをめちふくをは
ふゝをしをゝはゝ和めをもをあればゝをを
をゝ大ゝゝもゝのゝをを人ゝ安ゝをゝ。

ゑなど摺巻におさむることをこひおこ[illegible]て
あのことのはあるひらがなをもばらをを考へ
くものしり学問なる物知をそめ用ゐ
ものしみくしぶ保まくくの考へをおもひおいさて
うおもものくまくるふもちれをとるこうをを
里にのこるを追考のこの物

市思猛考

此ふみ記を書とるれて書のをよくとほる
いやしげるこのをもをもむらよかきるし
まるくしき和の〜をこにいひかしまく女の
かけるさ方にもれぐちてものせをはをども
雄〜しきすぐて何れの物語ぶをども
ふを似ぐ云ふ川のかきざをふしていはもめでたき
姫をなるとかわをにこの世をむ乃ぶ物るは素考

箱の物と殊道生の跡といふものと素女と三女
あるふたの〳〵きいしづみことわるべきあるて
よさあるさもとをもなり俤をもとめよう
いづれもいとみごろがきをきこえいまし〳〵乃
きびしき俤字をもてかきつくるもいとぞふのみ
三女ふかむが〳〵あるべていきのもとおもふ
ゆるを和歌とし〳〵いかるべやある歌をみ和歌の

中間（ナカラ）まさ〳〵傾（カタムク）ふかきしかどもせるとあるを〳〵
ふしてあるべの古物のいとをされく和歌が
をるるあるべもれ多のあるべ殿の大人のたぐ
ふき説をはべをだ位（まカラ）のさとりやまき事に
かしら書よ可能なるまれ和示し殿を面し
このぞいこぎ内きをひをまをといまふ
をはしとをかきつけぬ又この物ども

古事(フルコト)のゆゑよしなどくはしくいへる文は
あまたしくいはゞ煩くもあらねど初まなびの
ためにかつしるしぬ

藤原識是

おそらくかくまじたるとこの
かゝるさまにせしもたゞ八つ
の作ある也しかるなれば文
而もおもしろき事いかならんを
知べし
○いづこを中比より土人での語に
田舎のことのしるるはたゞ
入道殿の古き記録其九五也
又古人今集を読る文原庸
青の上海のどうなりて
たる時の小野小町の哥にて
し事をとる也たる小まく
いしいづこといひ紀氏のそふ
をさしていふ也
解由とは上ば租税をと
さめて勘解由使といふ役人
より解由状といふをとる
なり今の世貢納の請
取目録をとるなり

土佐の日記

貫之延長八年任土佐守承平四年に五年の任限満て京に帰らる時の南海航路の日記なり

[seal]

をとこもすなる。（抄をとこもすなる日記とあり附考いまのごとし）日記といふ物を女もして
みんとてするなり。（抄女もしてこゝろみんとてとあり附考いまのごとし）それのとしの。
十二月の廿日あまり一日の日のいぬの時にかどです。
そのよし、いさゝか物にかきつく。ある人、県(あがた)の四とせ
いつとせはてゝ、例のことゞもみなし終(を)へて、解由(げゆ)など
とりて、住(すむ)館(たち)よりいでゝ、舟にのるべき所へわたる。

[seal]

ののしるとは詞今の俗使ふいかりさわぐ詞の類とのみ心得たれども このごろハさるにもあらず 今の言ひさわぐ心ちにいひし詞なりとしるべし 人々の別れをしたふ心の
るのはなむけハ餞なり

しもあるしらぬ、おくりす。年ころよくくらべつる
人々なん。附よくあらそへつる人々なん とあり 抄素いまのごとし わかれかたく思ひてしきり
にとかくしつゝ 素日しきりにとあり日字ハ衍なるべし 又附とかくしてとあり抄素今のごとし のゝしる
うちに夜更ぬ
廿二日。和泉の国までたひらかにとねがひたつ。抄素和泉の国まで
とたひらかにねがひたつ とあり今ハ附によれり
藤原言実（トキザネ）船路なれど馬のはなむけす。
上中下 かみなかしもゑひあきて 抄ハかみなかしもゑひあきて附ハ上中下 素いまのおなし
いとあやしく潮海のほとりにてあざれあへり

やぎとハ国府なり

ものによりてとハおくりものによりてなり

廿三日。八木康教（ヤスノリ）といふ人あり。抄附ともにやぎのやすのりとあり素ハ八木なるべし ここハ山
ともやぎとも定めがたし
この人国にかならずしもいひつかふものにもあらざなり。附いふ人ありてこの人国にて とあり 抄素いまのごとし
素ハいひつかふものにもあらずとあり 抄附
いまのごとし
これぞたゝはしきやうにて。附をもにたゝはしきやうに てとあり 抄素今のごとし うまの
はなむけしたる。神がらにやあらむ、国人の心の常として。
今ハとて見えざなるを 附今はとてとあり 抄今はとて見えざなる とあり 素いまのごとし 心あるものハ
恥ぢずになんきける 抄はぢずなんきける とあり素いまのごとし 附はぢずなんきける これハものに
よりてほむるにしもあらず

古ハ仮名ニ漢字ヲ連ネテ漢詩ヲ作リテ小野の篁ノ如キ歌人モ出タルナリ

ちゝはゝのゝ〇ノ字ヲ右ノ如ク略シテ書クトイヘドモ古クレノ文ニモ多クハ用ヒザルモノナレドモ肝要ナルベキ猛人云追考スベシ

守ト八年之任ガ終リテ彩任ノ古依ニ入京シモ有リ

ケラ〻ハ袋ノ事ナリ

廿日。漢詩ヲ作ル。

むけーにいまーと あり抄素今のごとく

あるとき。附素ヲクトノ〻ヲ上ノ下ノ童ノ如

きて。一文字ヲ〻ニ書キ〻ハ〻ノ字ハ八十文字ヲ

ふゝてぞあそぶ 附ナシ

廿五日。雪のたちまち降りてさえ侵ル。抄さえうとあり 附素今のごとく

よばれていきて 抄素ヲクトあり 附いまのごとく 日ゑと日。夜ゑと夜。

あそぶやうにて附うとかゝずあそぶ ふてとあり抄素今のごとく

廿六日。雪いたくふる。抄たちにていつる附たちに あるゆゝあり素今のごとく あるぎ

ぬけ出ぬ人ハ袋ノ事ナリ

ぬけ出ぬ人ハ袋ノ事ナリ

あるとき。附素ヲクトノ〻ヲ上ノ下ノ童ノ如 とあり抄今のごとく

詩郎 命あるゝに。抄とのゝまでに附ゑまてふとあり素いまのごとく

掘りづけたるぎ〻ゝ。素こゑあり附こゑ ふあげてとあり抄

いまのごとく やはと云ふ。客 まうどをあと人他 いひ

あへり。附素あへりとあり抄今のごとく ゝ云ふ。抄これこえ附こゑ とあり附素今のごと

やるゝ云ふ。あるゝ抄ゝ

新いでゝ云ふ。あたらしと抄ゝ

とうしぬるうぬるゝ。帰ル者あ抄者ノ

志ろゝへの波ノ立ちくゆるひて日を経ぶ仮ゝ

土佐人橘春相云大津は此はいにしへの国府より今の府へ一里ばかり西南の方にて其景勝なり浦戸は大津の東へ二里ばかりと云ふ今も京字(?)万葉の抄の説也

いそぎとはいそしむと同意にて勤の字をよみてものをつとむる意なりふてハ猿丸の

こと人々のもありけれどさかしきもなかる

べし。とかくいひてさきのかみも今のももろともにおりて。

今のあるじもさきのも。抄素今のあるじもさきのもとあり附今のごとし 手とりかはして酔ごと

にこゝろよげなる言していでにけり

廿七日。大津より浦戸をさして漕ぎいづ。かくあるうちに 抄かくするとあり附素今のごとし

京（みやこ）にてうまれたりし女子（をんなご）。抄うまれたりしとあり附素今のごとし くにゝ

てにはかにうせにしかば。抄附にかくてとあり素いまのごとし 此ごろのいでたち

いそぎをみれどなにごともえいはず。抄何事もいはず附なにごともいはずとありて素今のごとし

又とどむるをいふ俗云のいそぎも同じきよまるなり今俗のいそがしといふ言ハたがへり

ある人々とハ一行の人を云ふ

かこの崎ハ大津のほとりにて国府の

いづれにてもあるべけれどいまは素による みやこへ帰るにをんなごのなきのみぞ 附なきことの

こぞとあり抄素今のごとし かなしこふる。ある人々もえたへ（堪）ず。

この間にある人のかきて出せる歌

みやこへと思ふをものゝかなしきはかへらぬ人の

あればなりけり。又ある時には

あるものとわすれつゝなほなき人をいづらととふ（く素）ぞ

かなしかりけるといひけるあひだにかこ（鹿児）の崎といふ所に。

附いふ所にいたるにとあり抄素今のごとし かみのはらから（兄弟）又こと人これかれ。酒なにと

くち酒ハ大酒のあれハ酒ねあれていとたうとう門酒を酒人ていふるひるもそ引あぐるうるへ人々のかくとものまむさる奇を酒の目ふてありてたくこれよくけるこ所のむろる土一色の花らるべ

とておひ来て。扨素子行あぐくあり附今のごとく いづれかてもえんど附ようう 殘ふかゆとあて。ゆこの
まどうるこことをいふ。附おりのその次ようけのこあひてくありまは扨ふハ今
ちれたちの人々のむうふびくる人くぞ。ゆあるやうにいと
まこれ絶くゆくとうれがくいひけ(てれまま)ふかの人くのくち絶も
ようろうちふて。扨をろくそくいうくべみてゆあひ出やる所
をーと男子人やとるとあーー鴨のうちむれてくを
ゆまこハ来にけまゆといひてあうろれぞいといとく(痛感)ふ人でゆ。
ゆく人のようまける

甲斐ゆハ古今集ひ(ひる)
をさやあもんーうまま
ひるもを越ーー山ーー女
風をまこハ旅撰の同しき
をりておもい出て来ちう
れどうひくるるべー
○虞公義歌。能今深山鹿
起。まこ春青とい方の
声振林木。響遏行雲。
ゆくゆ清の古事をもて

抑さやぞそあひ(ひる)ーーしぬるつこの源記ろと
ゆふみるうれ。扨をあひもちーねと を附素今のごとく といふあひぐふ。梶とり。拍の
あまれをふーでおのまーー酒とくーひつまバくゆくいゆん(け附)(附)
やてゆうちわ風もふさねべーーとさうびバ。紅ふれりゆんと
まゆひとをにあるる人ふとをふーにつけてゆーーゆども。時ふ(と附まう)(の秋ゆり)
ゆつうーきゆふ又あるる人。酒ぐふゆまど甲斐ゆれどいふ。
ゆくうたふよれ屋敷の蔵もちゆ(秋ままま)ゆくゆもたゆうひぬ。
とゆいふ好るおよひ浦戸ふとる。義京言実楊季衡(スニ)(ヒラ)。

かゝり附抄ふくつし
大湊をさしておふといふ
ことを略りたるさてさしておふ
といふ心を知らでは人かふハ
きこえぬ事なれど猶
猶ハ追風に任せて船を
梶をもの方をいふこと
もせうるなるべし
こゝ守くのかみハ先のこあ
の前の守の人の子なれば
彼もまた向ふなるべし

こと人ゝおひきけり

廿八日。うら戸よりこぎいでて。大湊をおふ。このあひだにはや

くの守の子。山口千岑。さけよきものどももて来て。船に

いれたり。ゆく〳〵のみくふ

廿九日。大湊にとまれり。くすしふりはへて。屠蘇白散

さけくはへてもてきたり。こゝろざしあるに似たり

元日。なほおなじとまりなり。白散をあるもの。夜のま

とて。ふなやかたにさしはさめりければ。風に吹ならさせて。

猛彦云坂田先ノ説追考
又今言べし
坂田先ハんあどしもなるめ
るをしさて古抄に延喜大
膳式に正月元旦仕王経式
供ぶれ料に芋ハあらめを用
らしるもあらしゆるしなれど
もはや京ハ正月八日あれ元
日よ思ひ出べくも思ふれど芋
もあらめもしくゝこゝめふくて
ふるのかなるべし
おし鮎をまふにハかうし鮎と
あれどを押鮎元日よ用る例
ものよし江次第にみえたり
是ハおし鮎なるべしさて口を
すふしハをこしるりてハな
きをあやしの人の国ぶりを
たはふれていへるなるべし

海にいれてえのまずなりぬ。芋も。あらめも。はがためもなし

抄いもしあらめもはがため附芋しあらめも坂田先生芋もあらめも坂田先とありて之本おの〳〵異也今はこの門の見られとしとて本行のごとくせり

かうやうのものなき國なり。もとめしもおかず。たゞおし鮎のくち

をのみぞすふ。すふ人ゝの口を。おし鮎もし思ふやう

あらんや。けふは京のみぞ思ひやらるゝ。九重の門のしりくべ

之縄のなよしのかしら。抄二への附との附このかとありてりどの八所し今ハ未ふにゐる ひゝらぎら

未むるぎなるとあり附抄今のごとし いかにぞとぞいひあへなる 抄未いかにとぞとあり附今のごとし

二日。猶大湊にとまれり。講師。ものの酒おこせたり 附新田とあり抄未今の如し

三日。おきてこぎいでるに、風なみのたちさわぐ。とどまりぬ。

こゝろやすんぜんとのたまふ。

四日。風あげぞ。えいでずゆきさけ。酒よきものたいやんまこ

とをうやうやうをめてくる人。あり抄今のごとし。れいもえあ

らで。いさゝけをさせさせ。附素白。拍子をうちて。しきやう

なれど。まくるこゝちもせず。

五日。風波やまねば。おなじ所にあるに。人。絶ぞやふ

らひふく

附素白。おこせたりの次の日。ふかれてさわぐ。花をつけたり。とあり。素白。抄。

あるもあり。こゝにあり。ずこうるまこりなれば。えんぐんをうるべきこと

拍子。つゞまりて。なほ。なほ。曲。

月のくまなき。紙。ひろげて。

おもしろきこゝろ。紙。ひろげて。

猛夫云。紙。追考。

六日。きのふのごとし。

七日。なりぬ。おなじところにあり。ゆふ。白なるなどを見て

ぞこうひるし。附素白。たゞ。波の白きのみぞ。あり抄今のごとし。

くるあひだ。ふかれ。波と名ある所を。經をなくて

素白。とあり。抄。附今のごとし。

附今のごとし。

樋。ゆるひたぐ。あてゝ。おせたる。ゆとれそくふとばたらせ

たる。所。あるべけれども

淺ゆふれば。ふかしあれば。水もなく。波ふかしうる

附沫浪とありあやまりなるべし又るぶごとくいそんの文なるべくしくいへるもおかしといふべきんか
まやごかうせてきたる人の名をわすれたるもいかなる事とにまをれるか又こゝろきおほするをおぼえなんすなをわすれたるにあはれなるとてまぎらはしてかける

わかなゝりければいとおかしかし。附いともかしこしとあり抄素今のごとし 此池といふは
所の名なりよき人のをとこにつきてくだりて住けるなり
けり。附素けりの二字なし抄あるとあり 此長櫃のものはゝ船人にて。附素にはみな人わらはまでにとあり
抄今のごとし わらはまでにくれたれば飽みちて船子どもは鼓
はらつゞみをうちて海をさへおどろかして浪たてつべし
附沫浪とあり抄素今のごとし かくてこのあひだに事おほかり。抄かくての二字なし附素いまのごとし
けふわりごもたせてきたる人その名などぞや今思ひ出ん。
附素いまわりごとあり抄今のごとし又附ともさせてきうりごと人の名か中とぞやとあり抄素今のごとし 此人哥よまんと思ふ
心ありてなりけりとかくいひて浪のたつなることゝうる
へいひて。抄附うるへいひてとあり素今のごとし よめる哥
行さきにたつ白浪のこゑよりもおくれてなかん
我やまさらんとよめるいと大ごゑなるべしもてき
たるものよりは。抄素もてくるとあり附今のごとし 哥はいかゞあらん此哥をこれ
かれあはれがれども一附ナシもかへしせず。しつべき人素アリも
まじれゝど附素まじれどとあり抄今のごとし これをのみいたがり八素物をのみく
ひて夜ふけぬ。此哥ぬし又まからずといひてたちぬ。抄いとおほくいひてとあり

たゞむきにいへるなるべし
あはれがれども次のいふがごとくまことは
抄するこしまれど宗よまめづる
にはあらでうたをいひてそし
れる人をいやしめたるなり
べし附民家によまたる詞づかひ
又今の俗に人の俗がゆるあれ
あやまちもてゐるをとへてよ花
こともてゐかといふも同じ

附素今のごとし

ある人のあれてもなをそこふいぶきろぶ昇の
ぬ一せんといふおどろきてぶとおうしたことうぶよみて
んやそよみたる人くぶやいんぶーといぶやうしびしてを
ぬる人どを給てよてんとして（見）とと絵人々るとぶ夜文ぬやしけや。

附夜文ぬとあやあんま素行ろんとあり抄今のごとし以絵づひすべての
文まあしん素ろんまどの絵あるもるさもろまどろぶきたるそそやびふある やぐている事
ぶそもくいでよきたるといぶうーぶりてとふびるらんさ
すぐふたもていたびぶちひてとへばいんぶ昇

約人もとするも神乃なるこ河みざはけしこ為

附素今のごとし

ぬまにまさりたれどもあんよ絵んる。（見素抄）くいふものうたて（愛）
きれがふやあんぶいと思ぶするぶ思ぶるとおとふてばなふ六（抄三）
せんぶおむおおさるるよ（堀）ぶーけべー（肌）（附おさるあんおてと素あんる おさるてとしあり抄今のごと）あー
くもあまぶいふもあまぶ。（附いふまれとあり 抄素今のごと）たよりあるばやー
んとてぶおう事ぬ絵んる事
八日ぶさえる事ありて。（附あまばとあり 抄素今のごと）れおおぶ而あまぶ
ふぶ月（の附り）八海ふぶいるおまどとんて業平の素れぶ山のとわび
ていまずるあーぶ形んぶいふうあんいおびあるぶーうーぶ

さへてハさゝへてなり

潮にみてハ出水の流るゝをいふべし
次ニ天の川の水のながるゝ
水門とのミいひたるハくだ
しりてて

あまたるハあまたあるの
約也

にてよましかば。(附ニしうみべにて月いでたらましかばとあり抄素今の如)波たちさへていれずも
あらなんとも、よみてましや。今これを思ひて。(附素思ひ出てとあり抄今のごとし)
但いづれにても まさるべし ある人のよめる(抄素よみけるとあり附今のごとし これもいづれにても)
照月の流るれぞあまの川いづるみなとは
海にざりけるとや(附とやの二字なし 抄素にあり)
九日つとめて大湊より那波の泊をおはんとて。
こぎいでけりこれかれたがひに国のさかひのうちはとて。
見おくりにくる人あまたが中に。(附素何まだとあり抄今のごとし)藤原ときざね。

附とまれにおひくるの次ニ此人
んごしあるく人ありしとあり
抄ニハ見えしありてよろしと
するハあしかれど同じ続の
たくしげ見ればまさるべき
べき

えらびざるりぬハありぬべしと
あればたしり見ずるかの文
ざりもあり是ハありぬべし
ともきくべし

橘季衡。長谷部行政らなん。(抄素なんの二字なし 附ニあるとなし)みたちより(附ナシ)
で給し日より。(抄出たうびしとあり 附素いまのごとし)こゝかしこにおひくる此人々の
深き志ハ此海にハおとらざるべし。是より今はこぎは
なれてゆくこれを見おくらんとてぞ此人どもハおひきける
かくてこぎゆくまに〳〵海のほとりにとまれる人も(附素とほく)
まる人もとあり 抄今のごとし 遠くなりぬ。船の人もみえずなりぬ。岸にもい
ふ事あるべし。船にも思ふことあれどかひなし。かゝれど
此哥を独ごとにしてやみぬ

舟人ハ梶とり舟子などをも舟にある人々をもいふ舟の人のといふに同じ

思ひやる心は海をわたれどもふみしなければしらずやあるらん（附素作りあんとあり抄今のごとし）かくて宇多の松原をゆきすぐ。その松のかずいくそばく、いく千とせへたりとしらず。もとごとに浪うちよせ、枝ごとに鶴のとびかよふ（ぞ抄）。おもしろしと見るにたへずして、船人（フナビト）のよめるうた

見わたせば松のうれ（末）ごとにすむ鶴は千代のどちとぞ思ふべらなる

とや。この歌はところを見るにえまさらず。かくあるを見つゝこぎゆくまに〳〵（附まにとあり抄素今のごとし）山も海もみなくれ

てけ八ハ天気をやはらげていふ詞なりハ梶取などの方言をいふをきこえてそのまゝ書るなるべし古き物にハ見えぬ詞也

まぼるらんハ守るなどゝ同じく摘んでおやや待らんのことゝ師の説也さて

夜ふけてにしひんがしも見えずして、てけ（天気）のことかぢとりの心にまかせつ（抄てけ素天気（ヒヨリ）とあり附今のごとし）をのこもならはぬは、いとも心ぼそし。まして女は、ふなぞこにかしらをつきあてゝ、ねをのみぞなく。かく思へば、ふなこかぢとりはふなうたうたひて、なにとも思へらず（附素思へらずぞとあり抄今のごとし）。そのうたふうたは（抄うたふはとあり素ふは文の字なし）

春の野にてぞねをばなく　わかすゝき（若薄）に手きるきる　つんだる菜を　おや（親）やまぼるらん

（抄まぼらすとあり素まもらんとあり附今のごとし）

くふらんハ返てくふらんの意なるべし
○此歌附抄ともに一首とする。二首とするもいかゞ。師ハくふらんまでを一首とすべしといへり。かへらやといふハそれにつきてのかへし也。かへらやハ上の歌にかへす。よんべよりを次の歌なるべく思ふ哉いかゞあらん
○うなゐもハうなゐに同じ。童女をいふ。されば其人に浅ましくていはるゝ菜とふとするなるべし
○おぎのりハ賒貸の字の意にて價をかへさで買すことをいふと附抄にもかしたり。又いふ方ある説もの夜に沖へふなでするといふも、よく詮をうかひて又の日おのれてざまに出て價をかへさねとるなどハこゝにもよきこと也

しうとめやくふらん。かへしや。よんべのうなゐもが菜を。（附うなゐもがなし素によべの菜をとして うなゐもがの文字なし 抄今のごとし）

銭こはん。（素は一句なし 附抄にハあり）そらごと

をして、おぎのりわざをして、銭ももてこず、おのれだに

こず。（抄これならず多かれどとあり附素今のごとし）これならず多かれどかゝず。これらを

人のわらふをきゝて、海はあるれども、心はすこしなぎぬ。

かくゆきくらして、とまりにいたりて、おきな人（一本翁あり）ひとり、

（老女孫）たうめひとり。（附素たうの三字なし 抄にハあり）あるがなかに（附素にハあるがの文字なし 抄にあるによる）

心ちあしみして。（附ここちあしみしてとあり秘素今のごとし）ものもものしたばで。

室津ハ今もおなじ。附にいへるごとく地は土佐と安藝郡といへり。羽根ハ土佐の南海を行るればさきにあるべし

今しのしハ次の字にハ見えねハ助字なれど助語なるべし

ひそまりぬ。（附素ひそでとあり 抄にはおなじ）

十日。なはのとまりにとまりぬ。（抄附ともにハ此なはとあり素今のごとし）

十一日。あかつきに船を出して、室津をおふ。人みなまだ寝

たれば、海のありやうも見えず。（抄ありやうもみえずをあり附素今のごとし）たゞ月を

見て、西東をばしりける。かゝる間に、夜明けて、手

あらひ、例の事どもして、ひるになりぬ。今し、はねといふ

所にきぬ。わかき童、この所の名をきゝて、はねといふ所は、

鳥の羽のやうにやあるといふ。まだをさなき童乃

ことわら女の子どもハとふ時にあるにも人もおもしろがりていふなるを、よめる童が歌なれバ、又女の子のえとあるしのみ字義にハあらざるか

附も素にもむかしの人をとあり抄ハむかしの人の語にハあらず

○けふハましてと八今日あるをかなしがる事をいへり

事なれば、人々わらふに、（抄附日にわらふ時にと　あり素今のごとし）ありける女童なん、
この歌をよめる
まことにて名にきく所はねならば　とぶがごとくに
都へもがなとぞいへる。（抄とぞいへるの文字なし　附素ふかくあり）男も女もいかでとく
京へもがなと思ふ心あれば、この歌よしとにはあらねど、
げにと思ひて人々わすれず。この羽ねといふ所とふ童の
ついでにぞ、又昔の人を思ひいでて、（附素むかしの人をと　あり抄今のごとし）いづれの
時にかわするる。けふはまして母のかなしがらるる事は。（抄かなしがらると　あり）

古今旅部へ男とくだりける妻の夫しにてかへりける時よめる
北へ行く雁ぞ鳴くなる
つれてこし数はたらで
ぞかへるべらなる。トアリ

（附素今のごとし）くだりし時の人の数たらねば、古歌（抄古）に数はたらで
ぞかへるぞといふ事を思ひ出て、人のよめる
世中に思ひやれども子をこふる思ひにまされる
思ひなきかなといひつつなん（抄事にいひつると　あり附今のごとし）
十二日、雨ふらず。文時（トキ）維茂（コレモチ）が船のおくれたりし、ならしつ（鳴津）より
室津にきぬ。（抄つきぬと　あり附素今のごとし）
十三日、あかつきにいささかに雨ふる。しばしありてやみぬ。
女これかれ、湯あみなどせんとて、あたりのよ

ろしき所におりて行く。海をみやれば
雲もみな波とぞ見ゆる海士もがないづれか海と
問ひて知るべくとなん歌へる。さて十日あまりなれば月
おもしろし。船にのりはじめし日より、船には
紅こくよききぬきず。それは海の
神におぢてといひて、[illegible]葦かげにことづけて
ほやのつまのいずし、すしあはびを
心にもあらぬはぎにあげて見せける

十四日、あかつきより雨ふれば、おなじ所にとまれり。船君
節忌す。精進ものなければ、午時より後に楫取の
昨日つりたりし鯛に、銭なければ、米をとりかけて
おちられぬ。かかる事なほありぬ。
又鯛もてきたり。米酒しばしばくる。
楫取けしきあしからず
十五日、けふあづきがゆにず。くちをしく、猶日のあしければ
ゐざるほどにぞ、けふ二十日あまりへぬる。いたづらに

伊勢後とある所の注解さの十九丁さ佐川土佐の浜きを挙てふ此人の足たちて行こ伊勢国こいふまに伊勢物語と同一言あやし脚ハいまれきに浜さうを船いきろ中ておさうの浜名さあ〜〜ゆと和歌ひさぶかりこをれハちをらく和さうの浜名さたてこが

ひつ

日をくれハ。附言日をおくれば。ちろ数今のごとし。人〜海をなげ入れ〜ぐ。附言ぐ。ある。

えんのわ〜をたいこ

きてづ〜ゆ　ある日ニ生ある所風と浜こハ形りよ

どちらやあ国ゆんじゃ　ふりひるおきのいく国おいぱいと船ゆ〜。

ナ六日風波ゆ　ゆ〜ばだあるゆ　西ハもれどたゆ海の波

なくしてゆ〜ゆ　ゆ〜ゆ　ゆ〜ゆ　ゆ〜ゆ

風れ〜ゆ　ゆ〜ゆ　ゆ〜ゆ　ゆ〜ゆ

ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

舟のまへ　人をつかはす

ふるさとはあれにけりとこそおもへどもとまりをしれるものはなかりけり　かくなん　人のかはりてよめる

ふるさとは　人もあれにけり　いにしへの　ものとてこれる　ものはなかりけり

（原本は日の夜の月とあり、拾遺のごとし）山のまもるくて海のおもてもいとくらし。

（拾遺本にはとあり、原本のごとし）むつかしき。安倍仲麻呂

といひしる人ぞとしてやはかりとあり、原本今のごとし）むつかしき。安倍仲麻呂

家べをいでゝかの國人うものまもるむけしきとうれしとして。

（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）あっ

このゝ夢にくまもるどしてる。

（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）あっ

ぢやあまてらす。（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）廿日の夜の月いづるまで

ぢをたゞそれ月ハ海よりぞいでくる。おもをぞして。仲麻

呂のぬし。もう國ハ（小船）ぶなをもん。沖ぶねにしぶなんぶ。

（仲麻呂のぬしのあの人をふのぶりの海ぬ出でぬしとふなれハのぬしとハのふなれ

ぬきをしるこのことあるなるし船れしてを船ハぬしとふ

國ぶの國とうれくハ出たり）

（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）

の文ぎ方ハこのごとく船のぬしともぶべ名れど古文ハ

ぬきすぶをもん

ひぶ名とふハ方の水とあるまをれすり外金年ゐて

同一人のぶれ名ぶ名りぬ紀ま

まをまハ方ともとハ方ハ水しまをんを格の人の

あるぶめるぶ名るや

四月のしハ年後名ハて春て

すをれを女りしハんを

家を男りしぶを添れ

ぶる仲方ぶれハ年後名

あるれ男りしぶりしを

ぶをハをぶしを四の人方

紫後名ぶれるを漢文

ようつて唐人をそれ

なりぶんを格をハあるて

ぶをかれるんなり

このことぶつくなる人

（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）今ハ上るゝ下の人ぶ（歌）ぶうふをもしく。

よろこびあり（歌）ぶしるもあるぶふぶをもしてあるる方

まをうあるるをけるれぶまを日あれ三笠乃山よ

いでし月ぶもどぶあるるぶの人（の月歌）をまぶくおぶ

えたれぶ（拾遺本にはとあり、原本今のごとし）ことぶんを男ぶしぶ。をのかを

をぶぶしてぶをるこをぶ使たる人ぶいひをもれぶんをや

をるをえをるんぶと思ひのふるんぶをるをるをること。

ぶをとぶことをぶるぶれど月の新ハあるぶるあるぶ

とゝ皇太子をおやしなひ
まゐらせをはしぬ

たゞいまの法候ゝこの殿たちゝ
あてゝおもちとゝとゝも微しか
ほうとゝあるゝかゝこゝゝ世
世の海ふうゝゝるを末世のの
らゝるやうゝあるをゝゝゝ
きくゝゝゝゝ私世渡もあり
ゝゝゝゝ
ゝおばろけ八たていのとゝ
ゝゝゝたていの孫ゝゝゝ
てのゝてあゝゝゝゝゝゝ

くれば人の心もおのゝこゝゝゝゝゝゝ

物ゝ因果經ものゝ世のむ
かしとゝ物ゝいとうるきゝ
こゝハ土佐ちゝて高紙を造れ
しゝゝ者ゝゝゝ

廿四日。さはふのあるまで雨あり

廿五日。かぢとりの小風あしくとへば船いささぐ海ぞくあひくといふす。船ぞこさこも

廿六日。まことあやあらん海ぞくあらんといへば夜あるだろうよう船をこぎてこぎくるあるこの雨もる雨あり梶とりてぬさたいまつくるこぬさのあへられば梶取の五郎たいまつることハ。

ぬさうちるこぐこぐしあらばこがしあらばとまとてたてまつるまとりとそうてあるまとりのあり

土佐日記

抑よちぶりの神八道をまもる神なりいかなる道稲の神なりいかなる道稲の神なりいづくにてもたのをりのおり今の神をいかさてをまつ藤原の幸をいのる人神中抽の流れあしらしれ

たらめ八老女の種

ほでうち捨ずあの附八まを祈めの為に梶花をの方をる帆まうつと云者のえたんをいひよせるなり

ベー

月をのちぶりの神よりあ向まるぬさの追風やまをあまるんとそよあるべあひをこよ風よ々れば船ちとを

ひてくをこをて。船ひあ帆ひけるどよろこぶその言をきて。

[船抽用]

月をえも女まで。つしぶと思へばあらんぞくよろこぶいる

うに。漢語の言をあとひ人のよある者

[抽]

追風の吹ぬる間八ひとのの帆をうちて出抽

[天氣]

うをしうをうをふとそ。ていけのことに注をていくる[消]そのことよつけ

てのちとあり秘素今のごとし[紙二枚よ]

いまるとあるを今いるとちの八消まれる

日をのべたれば、はるかに晉書に武帝の
をきさきにまうさせたる風
なりとぞ。かかるこの女のこと
なるこの日之事ハ併此ときに
くハし

はせハじをうらうへいき
じなるすあるゆきまること

廿七日。風ふきぬ。あらくなれば、船いでさせもこまりぬ。しばしまくる
ぐ。男たちのいとぐさめに、抄くさめこの間
をきるもの。ものしき事よ。日とのぞ
ぬ。ハ教意しるどこのかるこのさてのをきてある女のあるを
日をぐふもよ天をもちっくるあれを教へとれりの
ものたちのさぐ又ある人のある
ゆ風のうくぬかきりしたくれば法ハいとで
たるけのまりの日のとの日風やるぐ法まるぐ法をぐ
て。蘇ぬ

うくのどうる

この日をハふ。公月のくれ
ぬのこの日のふ。ぬ絶ハ
いとをして今かくいくらハ
風をさらんくてこの日の
ものたちの好とる日ひ出
たるるべ

おぐつるハ教事。ぬく星
ぬるきふ日もたしうる
ちしぬこの日ぬやあるもや
おぐつるるーと
○海はれハうつるそるを

廿八日。よもすがらぐ。つ風。ものすごくふきぬ。

廿九日。船いでぬ。ぬくぐ。ぬうくぐ。ぬてこぎぬく 消息ごと問て
のぬ。法ぬいとぬくるるたるを見て日をかぞへれば。ふ。
この日のるるれば。ぬくれば。ぬ。 抄るれどもあり 消息今のごとく 西月るれば。東の
この日のことをいひいで。小松もゆるといへど海のうるれば。
ぬくぐ。ぬる女のかきてぬるぬる事 抄ぬくぐ。ぬ女うきてと。あり 消息今のごとく
おぐ門うるるくハるれ日う海出るくハ海ぬつをだく
ぬうのすくぬをとぞいるる海ぬてこの日のうるそハいで

うしはとしのあのハはかなくて
見えるべし

こぶさとふる酒さ去日れと
かるるれどとさくて

あるんあるある人のもある事

くふるれどもとろ好もはるるどもまた日はのとげこぶてる
酒よるるればかくいひはこぶ由くおのしろふかよ。ぬをとせて。
こるやいげこぶひるればとさのとるりと。ぬいひる。昔古伝
といひるるふよ。後る女はあるまもまもりでがいひるくく。
昔ふぶこるふふの名ふひあぶある。附今ふひあぶとあり抄系今のごとし あ
まれといひてあるる事

とふを後ふとろの名ふあべば。附素 あるる酒をも

あまれとぶそ見る 附

二十日で面風ふるぶでぬいぶくぶるあるまさせぶありとふて
で。ぬ。ぬうぶりに。ぬをぶぶてで。ぬ波のふとをわてる。附ふるをとあり 水門
抄系今のごとし ふるるれば。ぬ。ぬ。ぬ

ゑ一日よりかぞへふれば三十日あまり九日よりまたにてり。
今ハ和泉のくにゝ入てさうなまゝ海ぞく物をゝぶ。
二月（キサラギノツイタチ）新日、あしたの海面ゆゑ年の始だにゆゑなれば。
和泉のるぐといふ所ゝ出てこぎ出ぬ海のうへさけしの
ごとくに風波見えもせず遠浦の松原を引て出ぬ所の名ハ
見くぼ松原とぞいふ。磯の浜ハ貝のごとくに月貝（ツキガイ）の色ハ薄
桜みてゐるやうに今一いろにてたゝかけあひぐさよりふね。
たこの浦といふ所より。堀江（ホリエ）をこぎ出ぬ。堀江ハ海ぐちにあり。

ある人のよめる歌

むらしげきこの浦浪ハうらなれぬ日ハうらなをぬぐみと

まれれの見ぐるんぐ。永き春のいとくぐ月るでゐ日ゆゑ。（ミはり）（まと）

しるるぐさてくるしぐ。よみたゝへてゝ人ゝ。ふるうしてゝ。（秋去）

見ふのくる歌（秋去）

もゝくに永乃浦ゝ永ゝ。さきれ月をよそういらるで（四十日）（五十日）

見れハ神ゝよりりぐ。さく人の思ふるゝ。ゐ。ぐ。たゝことゝるゝ。

うゝそうにいるべし。永き乃ゝくゝ。ゐ。ゐ。いぐゝてゝ。（ひ一ゐ）（ひ一ゐ）

よゝ。いつを抄附ともに四十
日と侍ぜゐハだゝ。り。四十日
よそういつゝとゝ。ゐむ。古本に
五十日をいゐゝといゐ。二四十日
四十日ゐゐて。よそういつゝこゝハ
俗ゝ。四十日ゝ。五十日ゝ。ゐゝ。ゐ。ゐ。

思ふこと共。（附手紙に思ふこと共とあり抄本のごとし）えしも志ひ給ふて（附とうてえしもこそ之抄本）
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるべき玉にあたる女をたとへつる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつたへハ　ものくるしきよ
同ド

うつたへよ　ものくるしきよの
くんのあやしく　ものめさてよいへるうをそ　ものおもひ
くるしそ　文字　あてとりの　ものくり　ものこ　ものたちそと人
ものもいはる　ものこいはる　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ
かも　ものあてあそぶ　ものあり　ものの　ものこ　ものこ　ものこ
のあてあそぶ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ
いはるとかぜ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ
ほとゝぎす　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ

ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ　ものこ

今めくとハ人の抜よそやる
〻源氏よ多き消ゆてくら
さ月よりてゆ〜づ
ムらされり

とあり屋〜めくいひてぞ〜あり。あるあひだよゆ(不)
意
るく風吹てこげどもく。志ほ(後方退)ぢそこ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜。
(抜)
ちとく〜〜ぐうちそあたべ〜。櫂とものいたくばなき
の船ハ伊の神ぞ〜ぼ〜さとの櫂おそそ〜〜。
とハ(附考)今めくめけ〜さてぬさをたいまつる給へといふ。(附考ニ字ナシ)
いふよ志ぞ〜ひてぬさたいまたるかくたいまつれども。(附考ナシ)(一抜ナシ)
もいく風やうでいやふさよびやたちよ風波のあや
うくれバ櫂とるを又いそくぬさよハ波んのあう抜バ。

こふひもあうれあり。ぢ〜ぢ〜と思ひたまふ〜さとの。
附考ふだりの抜たふ〜さ
ものとあり考今のごと〜
たいまつる給へといふ抜たふとつふとあり附考今のごと〜
(附考)
又いふよ志ぞ〜ひてぞ〜ぢ〜ぢ〜ハせんとてまるこもこそふ〜
あまぞ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ある後をたいまつるとて海よりち
志あつれぞ〜ぢ〜ちをぞ〜。されぞ〜ちつけふ海ハ後のごと
(殘念ん)
附後の中ふとあり
抜考今のこと〜 ゐ中ぬれぞ〜ある人のまある事
ちとぬぬぞ〜ある伊の心をあ〜海ふ後をいまて
(の抜)
ぬ門ふつるうぬぞ〜たく。後のえ。ますれ考。春の櫂ねぞど
(の附考ニアリ)

いたくハいたく〜の選ハ
あ〜さから
ひさのハ三月三又日と抜伝
〜〜てさくべ〜

うゝくハ今ハ法こゝ
同し

おれいまハ名ゐべくよな
たくめとゆゝろ人るり附
ふハ巨ふとかゝり

いふ神まハあゝぶ。かゝ。同もうけゝく。須ふ神の心
をこそハ見つまゝ。梶とものこゝハ神の汚れ事多。扨ゝゝ事附素ハハあり
六日。みを洗ゝ。澪標 のもゝ附素 のゝどゝ事いで。難波 おには 秘シ 秘シ 祓波の津を乗て
河尾よい津。こゝる人こ。女をさゝるゝさゝの。扨女おこゝる附おこゝる
女とあり素今のごゝ
えゝゝひまゝをあて。時ぶゝ。ゝゝ門ゝ。かれ高 碎 高ハ
の。陸路の為れ おれいこ。彩迎くゝりぬ。とゝふをよろま 陸附素
びて。新庄ゝ。かゝらをゝゝげて。素附ゝゝげさせて とあり抄今のごゝ かゝこで
いへ河

いつぜゝゝゝハ心ゝこゝふ
ゝゝこゝ。ゝけのゝけハ遊の字
ふてまをゝけのゝけふ同し

祓者を素ゝやまゝびゝく
仮ゝつけたれゝこゝハ心ゝ
ゝぎゝゝもむゝこゝゝらんゝ

いゝ川ゝゝゝいゝぶ。ゝゝうゝ。ゝけるゝ。なふゝぶゝこ。ゝゝこゝぎゝゝけて
みゝゝの素ゝゝゝ。ゝゝゝと思ハのゝゝうゝる人のいゝまゝ。人ゝゝあゝ
が河ゝこゝまゝゝゝ

○こちくしき八俗ニこけく
したる人をいくぐとく
保氏るとよくもしき人と
いつまも国しんぎくん
○やしきのまとしとこ八
ぎのまとしいふまと
○ぎがころ八ぎの迎ちくん
しきにわこるく

やうなるぎしふちこざるとりびこまどもど漢語のたくえの
ぎりかめでこうやまぼこりふよやあしんかくじてあ中
さこぎ。ぎのまいぎせり。ぎの辛

来と来て八川の堺江の水をあさこぎ水もまぎく
なづむろふるこれ八やまいをもれ八ぎあるまぎ
一うまことのあうびぎ今もしん

とくと思ふ水るやまもこうこめに水のこうれ
歳さまるまくり 抄沙さまるぎ 所赤今の
ごくしにれおてるまくぎ 今ぎ八ぎちくまま

ぬるぎふうこびまきへぎてどるまぎ 抄沙ぎ
おとくり移ぎこぎ。いこぎしまこれをどこまうちる
入て寝ぎくり 抄うちる寝まるりて履コ
八日。ぎ川のおとまにるぎとて。ぎのうひれうまることうおと
ウ抄
まにとぎまるぎこまひ水ぎ。ぎのやまひおうまてぎうくまま
むあるぎ人ぎあぎこうまるまのりてこうまうまのりてぎくまま
おとうまて。男ぎも。ぎ水そうにいうまりいい水ぎしてうこん水ぎる
とまま 系のてうまうまやとあり 抄附今のおとうまし

せちえもいはでねたるに
九月十五日
月のかたちもいとあはれなり
抄素今のごとし　門
いとあはれなり
抄素今のごとし　院
ようもいをるどこへ
抄素今のごとし
て、ねたきのかたちに
なほきの花といふ所をぞ
ながめ
あり抄素今のごとし　その花むつかしを思ひやりそうれば
おくとしるるあるあるへるあるあるあ

宇土野は攝津國島上郡にあり今鵜殿といふ

をとこもすべてしらぬ人もなし。されば、かくなん、

十日。さはることありてはてず。

十一日。風いたくふりてやまず。附歌もこゝにあり 抄素今のごとし かくてさは

ばかりなるよるのうちに、山のまにかくれるを見て、人々とかくいふほどに、

あるといふこゑをきゝつけてよろこびて、抄以一首す 附素に入れり 人々をぐして

て渡りぬる。山陰の格子にぞうれしきすきかりける。まゐに。

相逢ちのみとやまもぐ〳〵 歌をとゝめて 附素にこれをとゝめて抄いまだなし ごとし

ねがひはべるといひつゝ、やまの辺づくをゝろこびはべ

ばかりなる人々の中よりぞ、ものよくかける人。

ゑびもなるうちさびしくまゐりて、ふねにぞ抄さるのるとめども

ありあへるなる人、船のとまるをゝどろきはべる。おほ

ばかりもごとをみて、ものいはれぬ。あまのまゐりてこゝにぞ

なるゆゑしらぬ人のゑをあはれがりよろこぶ

ものゝさまにぞ。とゝいひて、抄活る。文をかきをとゝてぞ

あるんめりやうのことぞ。抄文抄おこのむしとてあるものあるべし。抄しま

とゝやくさゞめくもあるなかにあまびたちの岸のかたちなるふね、柳をかく
あり。ひるは人けなき物のうげれ（素うげのとふこなるなり　附素ゆかしなり　拔今のごとし）川の底にうつ
れるを見てゞあるなり

さゞ波よりもとるあやをばまろばのかげれるかして

かるらと鶴もあそぶ

十二日。山陰よりこゆるふね（拔山陰よりとあり　附素いまれごとし）

十三日。雨やみされど

十四日。雨ふりしかば、なほ泉にとまれり

十五日。雨ふりしかば、なほ泉にとまれり。（附素ふるまろと　あり拔今のごとし）私のむつうしさに私

よりも人のあるようにもあらぬ人の歌どもこゝにやうにかきてあるべ

きうりばあるべきのゝ又あるべきにはあらぬをこゝにかきて男もす

るとくこゝかもことゝもゝの人のいでいまぐるるもいまうり

十六日。ゆゆつゝ（附ようゝ拔ようゝ　素ようゝ附ようゝ）歌へばあるはいでよ

うれしかりしさの小枝の絵（附なるまろ小枝と　あり拔素今のごとし）繪　糧餅　法螺

うこゝも（拔ようのかたちのこと　あり附素今のごとし）いつゝぞやうゝ俗人の心を

ぞ考へねどそつふ形ばかりて京人もくふ俗なれて人

むつうしいむさくしなくつふこゝ

あるべしあるべしあるべしあ

うつよりうごく
○よりハ和名抄に精係とあり
わくのうつハ螺のうつ
くもしふて今のまさんべい
りうくるしのたぐひなるべし
○あるまうびきこぎこハうし
いしぬすをといんぐごと
○くるしかくありるこふ
を上ゴ山の兼盛が下ゴ今ハ
えしざるとしてまうけてま
ふべし

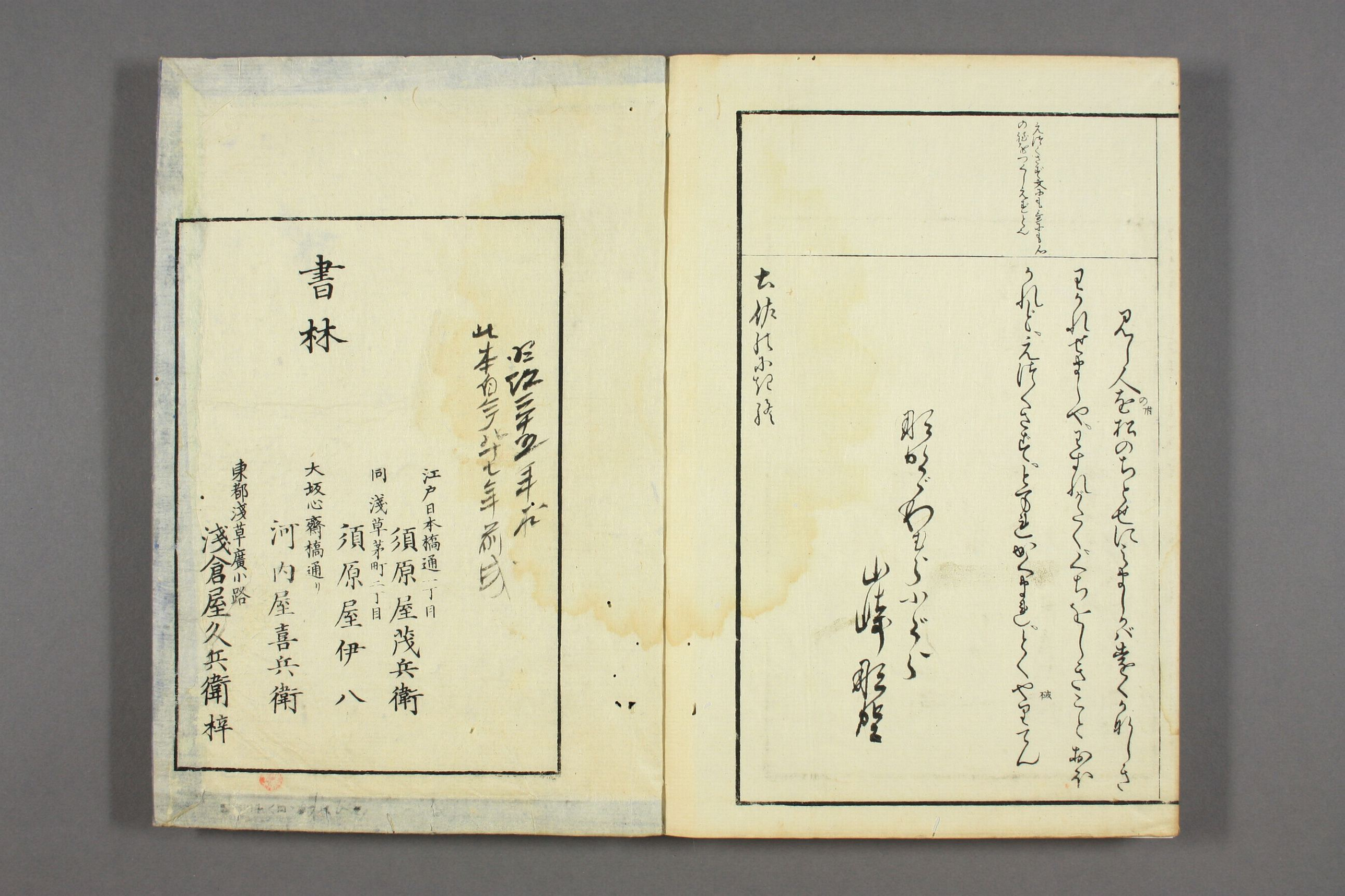
あるとしてうごくるごとしまぐ山ゆ出てゆ
しぬりハくるしかぐ人とくくるるごれみまくまを
ばいはぐざしもせぬるごに月いでぬ桂川月のあるにより
とも。用ふこれわまれる
とあり抄今のごと
でわくるく人くのいたくぐ川あとう川みまあくびゆ渕
さしにぬくくざまうごといひてある人のあるこ
久くるの月よおひるるつう川底ゆるうげも
ゆたくくざりうう又ある人のいふ

天竺のまるう形をうるつう川神を初めゆくも
まうりぬうるう又ある人のまある 抄ある所ゴ本文を
つう川ゆ月ゲんみまくゆ移ごあるゆ渕さよ
流くべくまうごくゆおれくるもあるゆ
抄おわかくぶあふけてくれば抄くれぬの上字 而くまゆくゆ
入たちてうれ。ぶるいくるてゆ入よ月あうるれぶ
よくるくるるくるゆくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]



此本自今年ヨリ
此本自今年ヨリ

書林

江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　浅草茅町二丁目　須原屋伊八
大坂心齋橋通り　河内屋喜兵衛
東都浅草廣小路　浅倉屋久兵衛梓